

平成 30 年 7 月 11 日

医療支援課

医療開発委員会の活動について

平成 27～28 年度は、「医学生に医師会活動・地域医療を啓発する」活動を実施した。
主要な活動は、以下のとおり。

1. 医学生の活動への顕彰および助成金の提供
2. 医学生・研修医との交流会の主催
3. 医療関係学生イベントへの後援等の後方支援
4. 研修医オリエンテーションの企画準備

具体的な活動は下記のとおり。

1. 医学生の活動への顕彰および助成金の提供
 - ・ 「医学生の活動（地域公衆衛生あるいは社会・文化領域）への顕彰および助成金提供」として、平成 29 年 4～5 月に募集し、学生サークル活動 2 件を顕彰し各 10 万円を助成した。（Medical Future Fes、関東医学部勉強会サークル KeMA）
 - ・ 国際医学生連盟主催「アジア太平洋地域会議 2017」（2017.9.17～20）に対して 10 万円を助成。
2. 医学生・研修医との交流会の主催
 - ・ 「医学生と東京都医師会との連絡会」（医学生団体の活動報告、講演、都医の紹介、懇親会）を 3 回開催（2016.1.29、2017.4.7、2017.9.8）10～20 名参加
 - ・ 東京都医師会主催「いい医師になろう！～総合診療力を高め、真の「かかりつけ医」になるために～」を都医会館にて開催（2016.12.11）60 名参加
3. 医療関係学生イベントへの後援等の後方支援
 - ・ Medical Future Fes 主催「Summer Fes 2017」（2017.8.19～20）について、後援、都医会館を提供、尾崎会長・目々澤理事の挨拶。延べ 180 名参加。
 - ・ 国際医学生連盟主催「アジア太平洋地域会議 2017」（2017.9.17～20）について、後援、尾崎会長 Opening Speech(英語)、目々澤理事 Closing Speech
4. 研修医オリエンテーションの企画準備
他府県で実施している研修医向けオリエンテーションを東京でも実施可能か検討することが協議され、まずはアンケートを実施することとし、アンケート案を作成。

以上

医学生の活動（地域公衆衛生あるいは社会・文化領域）への 顕彰および助成金提供

応 募 要 項

東京都医師会が医学生への顕彰および助成を行うことは、医学生に医師会を身近に感じてもらふことであり、意義のあることである。

地域公衆衛生活動は直接住民に接する活動であり、将来、地域医療、在宅医療、災害医療、公衆衛生活動をおこなう際の良いトレーニングになる。

伝統ある地域公衆衛生活動を行うサークルは、医学生・看護学生がその活動を企画・準備し、医療行為が必要な場面（健・検診や診療）は、そのOB・OGがそれを担うという形がとられており、そこまでの活動は既に医師会が行っている地域医療の活動とさほどは差異のない内容までになっている。

また、東京都内医学部学生によるさまざまな社会・文化領域における活動の活性化をも目的として、顕彰および助成金制度を設けることとした。

東京都医師会は、地域公衆衛生活動や医学関連の社会・文化領域において、その発展・啓発普及に寄与する医学生の団体を対象として、下記要領にて、これまでの活動実績を顕彰するとともに今後の活動への助成金を提供する。

なお、提出された最終的な活動報告は東京都医師会が公表する。

本件の応募は、大学医師会の協力を得て、下記のとおり募るものとする。

記

1. 応募期間 平成29年4月1日（土）～5月31日（水）
2. 応募要件 東京都内で活動するサークルであること。
サークルには医学生が複数名所属していること。
3. 応募方法 別添の「応募・推薦用紙」により、学生自身または代表者が所属医学部教員もしくは医師会役員の推薦を得て、過去の実績を明記した書類を添付して、東京都医師会に応募する。
4. 応募採択 東京都医師会が審査のうえ顕彰する。
5. 助成金 単年度、1サークル、100,000円とする。
6. 活動報告 活動終了後、速やかに所定の書式にて活動報告を提出する。

以上

応募理由

Medical Future Fes は、東京を拠点にし、全国の医学・歯学・薬学・看護学生を中心に医療を多角的に学び、将来の医療について考えていく医療系学生団体である。毎月1回30人程度の勉強会で最先端の医療に携わっている方々にご講演をいただき、その内容をもとに学生と講師の方とが対話をし、今後の医療の展望を考え、これからの医療を積極的に牽引する人材となれるよう日々研鑽に励んでいる。また、8月には全国から数百人規模の医療系学生を集め、様々な講演会や勉強会を行い、日頃の研鑽を全国の医療系学生と共有し、全国規模で今後の医療について考える機会も設けている。これらの全てが、学生によって運営されていることも特徴である。

今後は、勉強会の頻度や規模を拡大し、2020年東京オリンピックが開催される頃には、東京を中心とした全国の医療系学生の輪を作り、学生時代から医療をよりよくする機運が高まるよう活動していきたいと考えている。

医学生 of 活動 (地域公衆衛生あるいは社会・文化領域) への

顕彰および助成金

応募・推薦用紙

受付番号 2.

■ どちらかに○をお付けください。 A 個人 B 団体
■ 応募するテーマ・タイトル・内容 関東医学部勉強会サークル KeMA
■ 応募者氏名 (複数の場合は全員の氏名を書き、代表者に◎、医学生に○をつける) ◎高橋 健祐 ○加藤 久貴 ○濱名 香野 ○清水 麻央 ○高原 彩佳
■ 代表者の所属・職名・肩書き・学年など 東京大学 医学部 医学科 5年
■ 推薦者 (所属・職名・肩書きなど) 東京大学大学院医学系研究科附属 医学教育国際研究センター 講師 孫 大輔 (孫)
■ 応募者の連絡先 〒169-0073 東京都新宿区百人町4-5-2-703 電話番号 03-3364-3927 FAX番号 03-3364-3927 メールアドレス takaken6727@gmail.com
■ 応募または推薦の理由 ※ 他に、応募する内容に関して概要を800字程度にまとめ、添付してください。
■ 過去の活動実績 2016/10/2 第1回勉強会 (於: 東京医大、参加者20名) 2016/12/10 第2回勉強会 (於: 東京医大、参加者26名) 2017/3/18 第3回勉強会 (講師: 徳田守春先生(JCHO)、志水太郎先生(獨協医大) 於: 東京都医師会館、参加者50名) 2017/5/28 第4回勉強会 (於: 野口医学研究所、参加者25名)

平成 29 年 5 月 30 日

東京都医師会事務局 御中

関東医学部勉強会サークル KeMA

応募者代表 高橋 健祐

**「医学生の活動（地域公衆衛生あるいは社会・文化領域）への顕彰および助成金」
応募の理由書**

この度、貴会助成事業に応募いたします関東医学部勉強会サークル KeMA（キーマ）代表の高橋と申します。応募の理由は以下の 3 つです。

①大学の枠を超えて学生が主体的に学ぶ、勉強会文化の発信拠点として

近年、全国各地で医学・医療を学ぶイベントが多数開催されていますが、関東において大学の枠を超えた学生勉強会は殆どありませんでした。関東医学部勉強会サークル KeMA は、関東の医学部生が臨床医学の実践を主体的に学ぶ場を提供するべく、昨年 10 月に設立されました。

KeMA の特徴は、著名な先生をお呼びする回と学生が発表する回をバランス良く開催している点にあります。現場で活躍されている先生による実践的かつ質の高い勉強会を提供しつつ、学生同士でディスカッションする主体的な勉強会も提供しています。

このような勉強会を通して、様々な大学の学生がお互いに医学的知識・技能を身に付ける文化を普及させていきたいと考えております。

②参加者同士の交流

これまでに開催した勉強会では毎回 25～50 名ほどの医学生が参加しており、KeMA のような勉強会には大きな需要があるものと捉えております。参加者はモチベーションの高い学生ばかりであり、グループディスカッションではハイレベルな熱論を交わし、また勉強会後の懇親会の場でも熱心な情報交換が行われております。

③東京から関東へ、そして日本全国へ

KeMA は都内で勉強会を開催しておりますが、毎回関東各地から参加者が集まります。また、今年 3 月に東京都医師会館で開催した第 3 回勉強会には北海道から九州まで 50 名の学

生が参加し、大変盛会となりました。

私たちは、多くの大学の学生が KeMA に参加して刺激を受けることで、各大学内でも自主的な勉強会を開催するきっかけになることを望んでいます。今後運営をさらに安定化させ、関東だけでなく全国にも勉強会の文化を広めることで、医学生の臨床能力向上に少しでも寄与してまいりたいと考えております。

以上の理由より、本事業へ応募いたします。何卒ご支援賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

アジア太平洋地域会議 2017 開催要項

～10年ぶり2回目の日本開催～

IFMSA-Japan（国際医学生連盟 日本）による国際会議「アジア太平洋地域会議（APRM）」の10年ぶりの日本開催が決定いたしました。アジア各国から選抜された200人の医学生が日本に集い、アジア地域の医療分野の課題について、医学生を代表した提言をまとめます。

国際医学生連盟（IFMSA：International Federation of Medical Students' Associations）は非営利・非政治の国際NGOです。WHO（世界保健機関）、WMA（世界医師会）を始め、様々な国際機関、UNESCOやUNICEFなどの国連機関と公式な関係を結んでいる、唯一の医学生団体です。IFMSA本部の代表は様々な会議に招かれ、世界中の医学生を代表して発言しています。124の国と地域から132団体が加盟し、130万人以上の医学生が参加しています。1961年にIFMSAに加盟した日本支部は、全国の医学部・医科大学のESSや医療系サークルなどの団体会員、および個人会員によって構成されています。2017年3月現在、団体会員58校、個人会員700名、IFMSA-Japanの中で最大の無料メーリングリストには2500名が参加しています。

APRMとは、年に一度アジア太平洋地域で開催される、IFMSA主催の国際会議です。会議は全て英語で行われ、アジア太平洋地域から約200人の医学生が集まります。毎年、アジア太平洋地域の加盟国による立候補により開催され、2017年のAPRMは10年ぶりに日本での開催が決定いたしました。APRMの日本開催は、IFMSA本部役員が考えた様々な企画を、海外の医学生と共に体験できる貴重な機会となります。

- (1) 名称：[和文] アジア太平洋地域会議 [英文] Asia-Pacific Regional Meeting (APRM)
- (2) 会期：APRM 2017年9月17日(日)～9月21日(木)
preAPRM 2017年9月14日(木)～9月17日(日)
- (3) 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(代々木)
- (4) 主管：国際医学生連盟 日本 (IFMSA-Japan)
- (5) 主催：国際医学生連盟 (IFMSA)
- (6) 参加者：約200名（オーストラリア、バングラデシュ、中国、香港、フィジー、インド、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、モンゴル、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ウズベキスタンからの医学生）



APRM2017 JAPAN

【お問い合わせ】

APRM2017 運営事務局

secretary@aprm2017japan.org

アジア太平洋地域会議
事前会議 Pre-APRM
タイムスケジュール (予定)

9月14日 (木)

到着、チェックイン

9月15日 (金)

8:30 - 17:00 ワークショップ

IFMSA 本部役員による研修会 :

ソフトスキルを磨く研修会

(未定)

人権についての研修会

Ms. Jessica Zhang

(Karolinska Institute, Sweden)

医学教育についての研修会

Ms. Arij Chatbri

(University of Sousse, Tunisia)

9月16日 (土)

8:30 - 17:00 ワークショップ

9月17日 (日)

8:30 - 12:00 ワークショップ

13:00 - 15:00 Tea Party

お茶会

東京女子医科大学ほか 茶道部

アジア太平洋地域会議 APRM

タイムスケジュール (予定)

9月17日 (日)

到着、チェックイン

18:30 – 21:30 オープニングセレモニー

【挨拶】

来賓ご挨拶

IFMSA アジア太平洋地域責任者

Mr. Satria Nur Sya'ban

(AirlanggaUniversity, Indonesia)

IFMSA-Japan 代表

APRM 運営委員長

【出し物】

未定

9月18日 (月)

8:30 – 12:00 委員会セッション

IFMSA 本部役員によるワークショップ

Ms. Jessica Zhang

(Karolinska Institute, Sweden)

Mr. Mauro Henrique Camacho

(Federal University of Rio de Janeiro, Brazil)

Ms. Arij Chatbri

(University of Sousse, Tunisia)

ほか

12:00 – 13:00 昼食

13:00 – 14:30 Activities Fair

学生による活動紹介ポスターセッション

14:30 – 15:00 休憩

15:00 – 17:00 トレーニング

IFMSA 本部学生による研修会

17:00 – 18:00 夕食

20:00 – 22:00 Cultural Night

文化交流パーティー

各国の学生による出し物

9月19日 (火)

8:30 – 11:30 委員会セッション

11:30 – 12:30 昼食

12:30 – 14:30 トレーニング

IFMSA 本部学生による ワークショップ

14:30 – 15:00 休憩

15:00 – 17:00 テーマイベント①

Healthcare in Conflicts and Emergencies: Medical workers towards building peace

「核兵器、軍事力、紛争について」

—講演とパネルディスカッション—

日本赤十字社長崎原爆病院 名誉院長

朝長 万左男 先生

公益社団法人日本国際問題研究所

軍縮・不拡散促進センター 元所長

阿部 信泰 先生

(予定) NPO 法人アクセプト・インターナショナル
代表理事

永井 陽右 さん

17:00 – 18:00 夕食

20:00 – 22:00 パーティー

9月20日(水)

8:30 - 12:00 委員会セッション

12:00 - 13:00 昼食

13:00 - 14:30 ジョイントセッション

14:30 - 15:00 休憩

15:00 - 17:00 テーマイベント②

Healthcare in Conflicts and Emergencies: Medical
workers towards building peace

「難民問題と医療について」

-講演とワークショップ-

(予定) 日本・イラク・メディカルネット (JIM-NET)

代表

鎌田 實 先生

17:00 - 18:00 夕食

18:00 - 19:30 総会本会議

19:30 - 21:30 クロージングセレモニー

テーマイベント成果の発表

【挨拶】

来賓ご挨拶

IFMSA アジア太平洋地域責任者

Mr. Satria Nur Sya'ban

(Airlangga University, Indonesia)

APRM 運営委員長

9月21日(木)

チェックアウト、出発

医学生との連絡会 次第

日時：平成28年1月29日（金）

午後6時～6時50分

場所：東京都医師会1301～03会議室

1. 開 会 東京都医師会理事 目々澤 肇

2. 挨拶 東京都医師会副会長 角 田 徹

3. 東京都医師会からの報告

4. 医学生団体の活動報告

(1) 大阪どまんなか

(2) チーム・メディックス

5. 場所を改めて懇親会

医学生と東京都医師会との連絡会 次第

日時：平成29年4月7日（金）

午後7時30分～8時30分（終了予定）

場所：東京都医師会館501・502会議室

1. 開 会 東京都医師会理事 目々澤 肇

2. 挨拶 東京都医師会長 尾崎 治夫

3. 特別講演

演題：「当直で困らない頭痛疾患の知識（仮題）」

講師：東京女子医科大学病院 頭痛外来 清水 俊彦 先生

4. 東京都医師会役員の紹介

5. 場所を改めて懇親会

医学生と東京都医師会との連絡会 次第

日時：平成29年9月8日（金）

午後7時30分～8時30分（終了予定）

場所：東京都医師会館501・502会議室

1. 開 会 東京都医師会理事 目々澤 肇

2. 挨拶 東京都医師会長 尾崎治夫

3. 特別講演

演題：「守りの美学」

講師：順天堂大学 総合診療科・病院管理学教授

東京都医師会理事

小林弘幸 先生

4. 東京都医師会役員の紹介



5. 場所を改めて懇親会

2016年12月11日

**【東京都医師会主催】 いい医師になろう！
～総合診療力を高め、真の「かかりつけ医」になるために～**

本日のプログラム	
13:00 ～ 13:05	「開会のご挨拶」 東京都医師会 尾崎 治夫 会長
13:05 ～ 13:15	「過不足のない医療、かかりつけ医とは」 日本医師会 横倉 義武 会長
13:15 ～ 14:20	<p>第一部 医局や医学部では学べない「医療制度」</p> <p>医療を取り巻く深刻な現実や、医療財政が一段と厳しくなり、医療費適正化の流れが強まる中、どのように過不足ない医療を提供していくかを議論します。持続可能な医療を支えるためには、私たち医師一人ひとりの力が必要です。一緒に何が出来るか、何をすべきか考えましょう。</p>
14:20 ～ 14:30	「資源念頭に最善の医療を」 日本医学会 高久 史麿 会長
休憩	10 分間
14:40 ～ 16:30	<p>第二部 明日から役立つ「臨床推論」</p> <p>総合診断力を高める「臨床推論」では、コーディネーター役を務める東京都医師会の理事らの指導を受けながら、具体的なケースを基に、確定診断までのスキルを磨いていただきます。 真の「かかりつけ医」になるための資質を高めていただくのが狙いです。</p>
質疑応答	
アンケート ご記入	

講師のご紹介

<p><ご挨拶></p>	<p>日本医師会 横倉 義武 会長</p>
	<p>日本医学会 高久 史磨 会長</p>
	<p>東京都医師会 尾崎 治夫 会長</p>
<p><講師></p>	<p>独立行政法人 地域医療機能推進機構本部 総合診療顧問 徳田安春 氏</p> <p>1988年 琉球大学医学部を卒業 2005年 ハーバード大学大学院 公衆衛生修士号を取得 2009年 筑波大学付属病院 水戸地域医療教育センター教授に就任 2014年 JCHO本部総合診療顧問、筑波大学客員教授、JGFM編集委員長、臨床研修病院群プロジェクト 群星沖縄副センター長などを兼任、現職。</p> 
	<p>特定非営利活動法人 日本医療政策機構理事 宮田 俊男 氏</p> <p>2003年 大阪大学医学部医学科卒業 2009年 厚生労働省 入省 2013年 特定非営利活動法人日本医療政策機構に参画 2013年 内閣官房健康・医療戦略室 戦略推進補佐官に任命</p> 
	<p>東京大学大学院医学系研究科国際保健政策教室教授 渋谷 健司 氏</p> <p>1991年 東京大学医学部医学科卒業 1993年 米国ハーバード大学 リサーチ就任 2001年 世界保健機構(WHO)シニア・サイエンティスト就任 2008年 東京大学 大学院 医学系研究科 国際保健政策学教室 教授に就任 2012年 一般社団法人ジェイ・アイ・ジー・エイチ 代表理事に就任</p> 
	<p>公益社団法人 東京都医師会 副会長 近藤 太郎 氏</p> <p>1989年 慶應義塾大学医学部卒業 1993年 慶應義塾大学医学部神経内科 助手 1997年 東京都渋谷区に近藤医院開設、院長 2011年 公益社団法人東京都医師会 副会長</p> 

いい医師になろうよ！
～総合診療力を高め、真の「かかりつけ医」になるために～

過不足のない医療、かかりつけ医とは

2016年12月11日
公益社団法人 日本医師会
会長 横倉 義武

社会保障費は、医療、介護等を中心に今後も増加することが見込まれる

→ 財政を緊縮しようとする立場から、成長戦略や規制緩和の名のもとに、
保険給付範囲を狭める圧力が続く

時代に即した改革

持続可能な社会保障のために

財政主導ではなく、未曾有の少子高齢社会が進展し、人口が減少していく中で国民皆保険を堅持していくため、我々医療側から、過不足ない医療提供ができる適切な医療を提言。

例えば

- ・生涯保健事業の体系化による健康寿命の延伸
- ・糖尿病のハイリスク群への早期介入による透析導入患者の減少
- ・COPD患者への適切な医療介入による在宅酸素療法導入患者の減少
- ・症状や患者特性に応じてコスト意識を持った処方診療ガイドラインに掲載する等学会活動の支援

等

いま、考えなければいけないこと

少子化の進展



労働力人口の減少



給与水準の低下・保険料負担の増大



どうやって若年世代の負担を減らし、
社会保障制度を守っていくか

健康寿命を延伸し、
元気な高齢者が活躍できる社会へ

2

生活習慣、がんの主な要因と対策

主な要因

喫煙

飲酒

食生活

肥満

運動

対策

自分の健康を意識する

1に運動 2に食事 しっかり禁煙 最後に薬



健診を受けて健康状態を把握する



適切な保健指導・医療介入につなげる



かかりつけ医
の役割

3

「かかりつけ医」とは(定義)

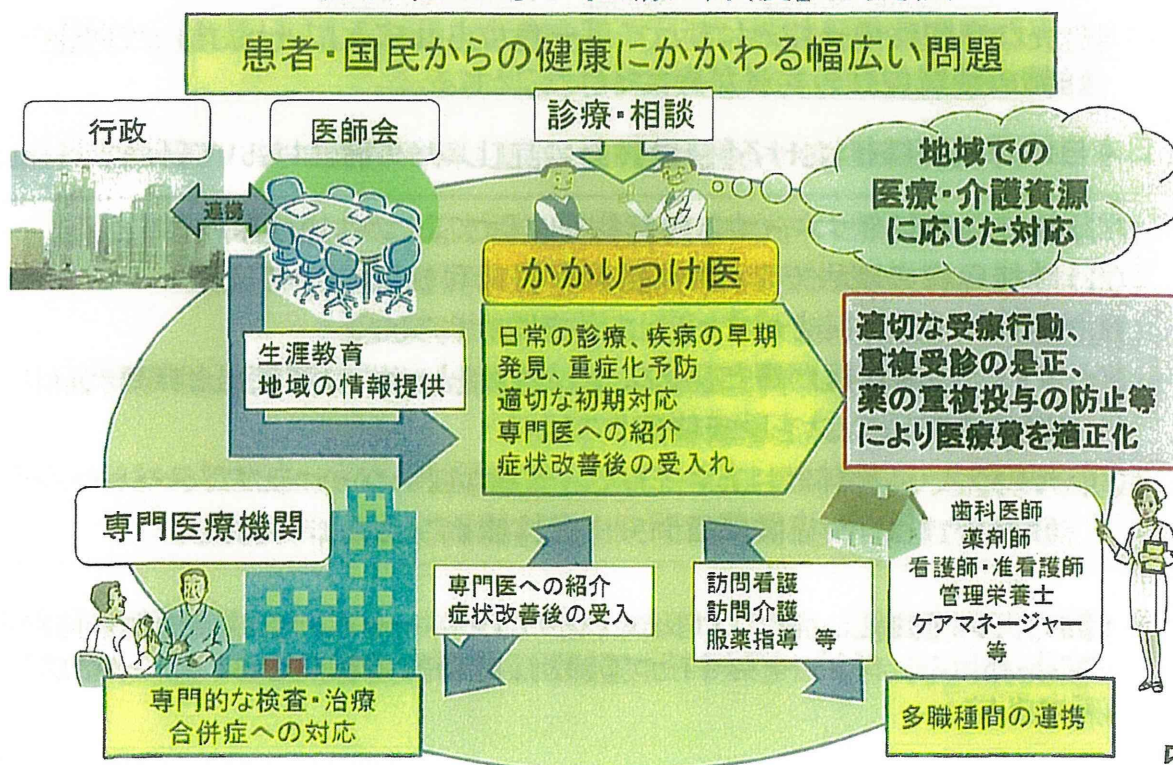
なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師。

「医療提供体制のあり方」 2013年8月8日
日本医師会・四病院団体協議会



4

かかりつけ医を中心とした 「切れ目のない医療・介護」の提供



5

日医かかりつけ医機能研修制度 平成28年度応用研修会

開催日：平成28年5月22日(日)
事前申込者数：6,505名
受講者数：6,051名
(日医会館：276名 TV会議：5,775名)



【プログラム】

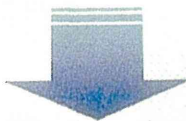
1. かかりつけ医の倫理
2. 生活習慣病
3. フレイル予防、高齢者総合的機能評価(CGA)・老年症候群
4. かかりつけ医の摂食嚥下障害
5. かかりつけ医の在宅医療・緩和医療
6. 症例検討

応用研修の受講機会確保のため、都道府県医師会／郡市区医師会においても同様の研修会の開催をお願いし、既に5府県で実施済、13都道府県で実施が決定している

平成28年度 地域包括診療加算・地域包括診療料に係る かかりつけ医研修会

【目的】

診療報酬における「地域包括診療加算」等の算定を目的とした研修
開催日：平成28年8月21日(日) 事前申込者数：6,660名
受講者数：5,849名(日医会館：254名 TV会議：5,595名)



【プログラム】

1. 脂質異常症
2. 糖尿病
3. 高血圧症
4. 認知症
5. 禁煙指導
6. 健康相談
7. 在宅医療
8. 介護保険
9. 服薬管理



研修の受講機会確保のため、都道府県医師会等においても同様の研修会の開催をお願いしている

6

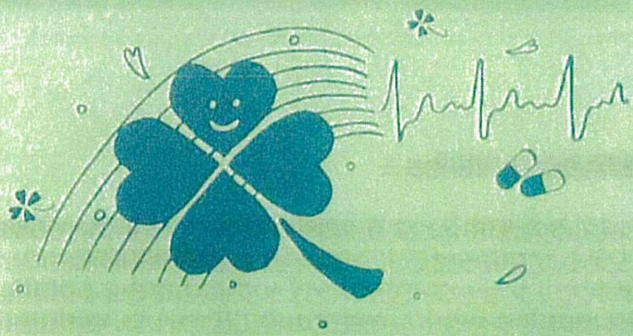
新たな専門医の仕組みの進め方について

- ・ 新たな専門医の仕組みに対して、「一度立ち止まる」こととした最大の要因は医師の地域偏在の助長が懸念されたことにある。
- ・ 日本専門医機構における整備指針の見直し等の議論において優先すべきは

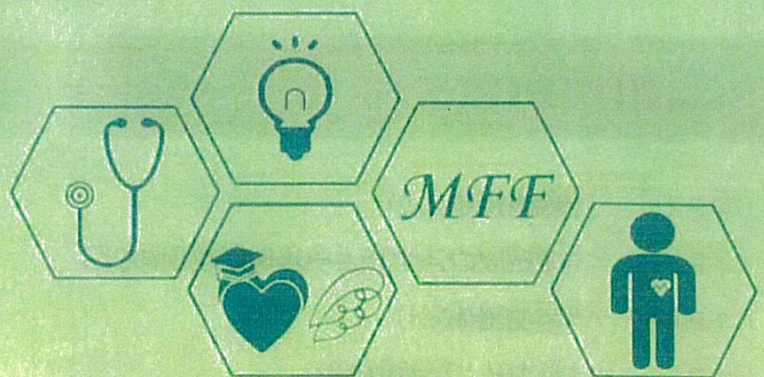
- ① 地域医療体制にマイナスの影響を及ぼすことのない仕組みとすること
- ② 地域医療の現場で活躍する医師が更新可能なものとすること
- ③ 変えるべきところと残すべきところを明確にすること
- ④ すべての研修医が専門医となることを前提とせず、専門医と非専門医は優劣の関係でないことを明確にすること
- ⑤ そのうえで、旧体制においてほとんど議論されなかったサブスペシャリティ領域の位置づけを関係者間で十分に議論すること、等である。

- ・ 国の介入を回避し、真にプロフェッショナル・オートノミーによる運営を可能とするためにも、スピード感を持って議論、関係者の調整を進めることが求められている。

7



—胸の奥から熱く—
Summer Fes
2017
8/19[Sat],20[Sun]



Medical Future Fes

Greeting



ご挨拶

公益社団法人 東京都医師会会長 尾崎治夫

日本、特に超高齢化を迎える先進都市となる首都東京において、都民が住み慣れた地域で元気で健やかに安心して暮らせるように、本会では健康寿命延伸のための疾病予防、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに対応できる医療提供体制の確立、東京の医療体制の実態を考慮した従来の枠に囚われない医療提供体制の構築等に取り組んでいます。

また、医学生との意見交換会など、次世代医師育成のための積極的なサポートにも取り組み、医師会活動への理解を深めていただく努力も継続しています。

Summer Fes 2017では、学部・地域の枠を越えた医療系学生が一同に会し、活発な議論を交わすことで、医療人としての知識・技能を研鑽されるものと期待しています。日本、そして世界の医学の将来とともに、地域医療を支える有能な人材と育っていかれることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

Medical Future Fes 2017年度 代表 黒木平

本日は、Medical Future Fes主催「Summer Fes 2017」にご参加いただき、誠にありがとうございます。「Summer Fes」は、2回目を迎え、医療に関わる様々なコンテンツを盛り込み、さらにパワーアップいたしました。

「Summer Fes 2017」は、～胸の奥から熱く～をテーマに、驚き、笑い、そして涙する、忘れてたくても忘れられない皆様のひと夏の思い出となりますように、メンバー全員で作りに上げてきました。そして、2日間を通して学んだこと・考えたことを、いつか皆様に思い出していただき、Medical Future Fesの活動が皆様の人生のお役に立ちますと幸いです。

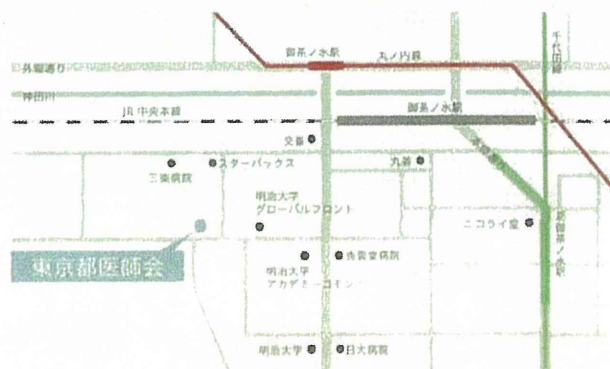
いよいよ、「Summer Fes 2017」の始まりです。皆様、思いっきりenjoyしてください!!



Contents

- P2 代表挨拶、目次
- P3 2日間のスケジュール&会場見取り図
- P4-5 学生団体紹介
- P6 8/19(土) 講座紹介
- P7 スポンサー広告
- P8-P9 8/20(日) 講座紹介
- P10-11 展示スペース
- P12-13 スポンサー広告
- P14 幹部紹介
- P15 メンバー紹介

Address



公益社団法人 東京都医師会

〒101-8328 東京都千代田区神田駿河台2-5
TEL : 03-3294-8821(代表) FAX : 03-3292-7097
JR 中央・総武線 御茶ノ水駅 (御茶ノ水橋出口) 下車徒歩約2分
東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅 下車徒歩約4分
東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分

8/19 Sat. Program

「医療系学生のためのアロマ講座」 会場① 13:30~

多忙で疲労やストレスが溜まっている皆さん、ぜひこの講演に参加してみませんか？
医療系学生だからといって勉強だけじゃなくて、サークルやバイトも頑張りたいけど疲れてしまう…。
そんな医療系学生がリラックスできる方法はないか…と考え誕生したのがこの企画です！
今回は先生のご経験もふまえ、アロマの基礎知識から、自分でリラックスするための使い方を学べます！
女性に大敵の冷えや皆さんの疲れを改善するためのアロマの紹介もあり、日々の生活に役立つこと間違いなしです！
講演中にはムエットをお配りし実際に香りを楽しむ体験も…！めったにないこの機会を活かし、疲れている友達、
家族にもアロマを提案できるようになりませんか？皆さんのご参加お待ちしております！



吉岡恵理 先生

アロマ環境協会認定アロマイストラクター・アロマアドバイザー、
ニールズヤードパートナーシップアロマセラピー認定講師。
商社勤務時に、自身も含めて過労で体調を崩す社員が多く、未病の段階でのセルフケアの大切さを知る。
現在はアロマ、マインドフルネスなど多角的に心と身体のセルフケア、ライフスタイルを指導している。

「災害から学ぶチーム医療」 会場② 13:30~

チーム医療という言葉はよく耳にしますが、良いチーム医療とはどんなものなのでしょうか？優秀な医師が素晴らしい指導力を発揮したらそのチームは良いチームか？その医師がいなくなっても同じように医療提供できるか？どんな状況でも、チームメンバーが変わっても、同じように医療提供ができるのが良いチームではないでしょうか？
日本のどこかで定期的な大きな地震に見舞われ、気候変動による集中豪雨による被害など自然災害の影響に見舞われています。このような状況で、被災し、日常生活を奪われた方々の中には、以前より病気を患って治療を必要とする方が大勢います。災害支援は1人では出来ません。多職種でのチームワークが必須です。自分がチームの一員になったとき、どのように行動するべきか、チームワークを向上させるための考え方や自分達にできることについて一緒に考えていきましょう！



左：鈴木真 先生 右：土屋貴大 先生

亀田総合病院は、亀田メディカルセンターの中核として機能する施設です。
千葉県南部の基幹病院として、優れた人材、高精度機器を導入・駆使し、
急性期医療を担っており、集中治療部門を整備し急性期高度医療の提供に力を注いでいます。
また、診療部門も含めた医療サービス全般にわたるISO9001の認証や
国際的な医療機能評価であるJoint Commission International (JCI) から
日本初の認証を取得するなど、医療の質の向上に全力で取り組んでいます。

「VRによる認知症の症状の一人称体験」 会場① 15:30~

みなさん、最近話題のVRを知っていますか？そうです、あのゲームなどで有名なVRです！
それを医療とコラボしてみたら面白そうだと思いこの企画が誕生しました！
認知症を自分で体験したら認知症の人の気持ちが分かるのではないかと題してVR×認知症！
ここに来ればあなたは認知症を体験することができます。さて認知症ってどんな世界なんでしょうか。



下河原忠道 先生

株式会社シルバーウッド代表取締役、一般財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会理事、
高齢者住まい事業者団体連合会 幹事、2000年株式会社シルバーウッド社設立。
2011年直轄運営によるサービス付き高齢者向け住宅「銀木庫」開設。
現在設計中のものを含め12棟の高齢者住宅の経営を行う。2016年VR認知症プロジェクト開始。

「持続可能な地球を目指して：21世紀の医療従事者の姿」 会場② 15:30~

アフリカのマラウイ共和国へ外科医として渡ったのが20数年。成人の4割がHIVに感染しているという絶望的な中で3000例を超える手術を手掛ける中、
農村にビビッドに根づく様々な宗教的な儀礼や伝統的な医療、さらには呪いの妖術社会に潜り込んできました。アフリカ各地で経験してきた様々な
コスモロジーや多角的医療を紹介しながら、社会の中で生まれ育っていくアフリカの命、そして限られた資源の中でアフリカの人たちがいかに命を
大切にしているのか、についてお話をさせていただきます。持続可能な社会創造の時代における地球の未来について、みなさんとダイアログさせてください。

杉下智彦 先生

医学部卒業(東北大学)、公衆衛生修士(ハーバード大学院)、学術修士(ロンドン大学アジアアフリカ研究大学院)、
学術博士(グレート大学キスム校大学院)。外科医師、公衆衛生専門家、医療人類学者として、
アフリカを中心に30か国以上で保健システム案件の立案や技術指導に携わるほか、
WHOや世界銀行などとともに「持続可能な開発目標(SDGs)」や「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」などの策定を行う。
2016年10月より東京女子医科大学国際環境・熱帯医学講座(教授/講座主任)。
2014年ソーシャル・ビジネス・グランプリ大賞受賞。2016年医療功労賞受賞。



8/20 Sun. Program

「命を支える面白い仕事 ～国際医療支援・病院づくり・地域包括ケア～」 会場①② 10:30～

累積赤字4億円の潰れかけた病院に赴任した。当時医師は4人しかいなかった。開かれた病院を作ろうと、30年前から「地域包括ケア」を始めた。在宅医療、健康づくり、死を看取る医療である。今、病院はマグネット・ホスピタルとなった。100人の医師が働いている。26年ほど前から国際医療支援を始めた。チェルノブイリに102回医師団を送り、イラクの難民キャンプに13年間通い続けている。子ども達の薬代のため、チョコ募金として毎年16万個のチョコを売りきる。それがNPOの活動費になる。文庫や共著を含め100冊以上の本を出版し、3枚の音楽アルバムをプロデュースした。皆と同じ発想をしないことが大事。医師だからこそ、人の役に立つ生き方ができる。自分でもわくわくするような生き方ができる。命を支える、すばらしい仕事である。



鎌田 實 先生

東京医科歯科大学医学部卒業後、長野県・諏訪中央病院へ赴任。30代で院長となり、潰れかけていた病院を再生させた。「健康づくり運動」を実践し、脳卒中死亡率の高かった長野県はいまや長寿日本一、医療費も安い地域となった。一方1991年より約25年間、ベラルーシ共和国の放射能汚染地帯へ100回を超える医師団を派遣し、約14億円の医薬品を支援してきた(JCF)。2004年にはイラク支援を開始。イラクの4つの小児病院へ10年間で4億円の薬を送り、凶暴な過激派集団「イスラム国」が暴れ、空爆が行われているイラク北部の都市アルビルを拠点に、難民キャンプでの診察を続けている(JIM-NET)。東北の被災者支援にもいち早く取り組み、「がんばらない」「1%はだれかのために」と言いながら、多方面で常に100%以上の精力的な活動を行っている。

「ロツテ噛むこと研究室」 会場① 13:30～

みなさんこんにちは。今回私たちは、日常生活で当たり前に行っている“噛むこと”について、株式会社ロツテさんのご協力のもと詳しく掘り下げていきたいと思っております!!
なぜよく噛んで食べることが大切なのか?噛むことは食べ物を噛み砕くことのみならず、脳や心、身体全身に影響を及ぼしたり、表情筋を鍛えて美容効果に繋がったり、様々なことに関わってくることを是非知っていただき、そして体感していただけたらと思います(*^^*)!
また、今回は株式会社ロツテさんにご協力いただき、咀嚼力判定ガムを用いて、自分がどのくらい噛めているのかをガムの色の変化をもとに測定し、日頃のご自身の噛み方を振り返りながら、噛むことについて考えていただく体験型となっております。噛むことの本当の意味を知り、それを大切にすることであなたの人生もより良いものになるでしょう。是非、私たちと一緒に体感してみませんか?



尾崎史浩 先生

“噛むこと”は、脳や心、身体にまで多大な影響を及ぼしています。創業以来ガムをつくり続け、“噛むこと”に取り組んできたロツテが社会のためにできること。私たちはこれから様々な研究機関や企業と連携し、最適な“噛む”を提供することで、みんなの力になりたいと考えています。噛むチカラを、みんなの力に。

「いい国作ろう医療政策」 会場② 13:30～

皆さん、2025年問題をご存知ですか?
日本は2025年に団塊の世代が75歳以上、つまり後期高齢者になり、“超・超高齢者社会”を迎え、これに伴って介護や医療費が急増すると考えられています。これが2025年問題です。この講演ではまず参加者同士でこの問題についてワークショップ形式で話し合い、その後厚生労働省の加藤先生に、厚生労働省が考えている医療政策についてお話をさせていただきます!これから日本は高齢化に伴い、医療のあり方が変わっていくでしょう。もちろん僕達、私達の将来に関わってくることです!これを機会に皆さんと一緒に考えませんか?一緒に日本の未来を明るくしましょう!

加藤拓馬 先生

福岡県福岡市出身。
平成21年に山口大学医学部を卒業し、九州大学病院で初期臨床研修医として2年間勤務。
その後、平成23年に厚生労働省へ入省後、医療保険制度(診療報酬)、熱中症対策やイタイイタイ病(環境省)、医師やコメディカルの国家試験などの業務を経験。
現在、厚生労働省保険局医療課で再び医療保険制度(診療報酬)の業務を担当中。



「難病患者、医師になる ～患者に寄り添うあなたに伝えたい一つのメッセージ～」 会場① 15:30～

もし、あなたがもう治らない病気だと診断されたなら、なにを思いますか？ もしもあなたのお母さんの残りの命があと半年と言われたら、どう感じますか？
あなたが医療に関わる限り、そのような事実を目の当たりにする患者家族と向き合っていく瞬間が必ず訪れます。
でもあれだけ患者に寄り添っていたつもりだったのに、当たり前だと思っていた自分自身の健康や命を脅かされて初めて、如何にそのことを真剣に考えていなかったのか僕は衝撃を受けました。
あなたにとって、生きるとは何なのか？そしてそれを脅かされた患者と寄り添う私達に本当に必要なものってなんだろう。
その問いを通してグループディスカッションを行い、医師であり患者でもある僕らとこの時間を共有することで、生涯残るようなたった一つのメッセージをお土産に持ち帰ってもらいたいと思います。皆と一緒に話せること楽しみにしています。^^

大野洋平 先生

福岡大学入学後、大学1年の夏に難病(特定疾患)と診断、在学中に同じ疾患の患者会に所属、患者サークルを設立。2014年福岡大学卒業。岡山大学病院での初期研修を経て、練馬光が丘病院総合診療科で後期研修中。卒業後は同じ疾患を持つ小児患者対象のサマーキャンプやNPO法人患者スピーカーバンクに参加。患者と医師の両立を模索中。



山田裕揮 先生

医学部進学後、患者をイメージ出来ない医学教育システムに疑問を持ち、全国の医学生有志を募ったResident14やTEAM関西代表などを通じた活動中に、自身が難病を患う。患者として、医師として、一人のひととして今、何が出来るのかを自身のテーマに日々患者に寄り添う。市立堺病院、聖路加国際病院を経て現職。



「癌の痛みをいかにして緩和するか？ -モデル患者を用いた疼痛緩和シミュレーション-」 会場② 15:30～

「痛いんです。先生、お薬でなんとかならないんでしょうか？」
これは、30年近く前、駆け出しの病院薬剤師だった私に16歳のがん患者さんが掛けてきた言葉です。
それからずっと、私は臨床の現場で患者さんの苦痛を緩和する方法を探してきました。
今回の講義では、そんな現場の知識を、皆様と共有したいと考えております。
講義の内容は、麻薬性鎮痛剤の使い方のコツ、副作用の対処法、患者さんが持つ不安への指導法、原因別痛みの対処法、麻薬性鎮痛剤では対応できない場合の鎮痛補助薬の使い方など現場で必須の知識です。
また、困ったときに使えるインターネット上の緩和医療資料集の使い方もご説明します。
今回はモデル患者をお示しし、どうしたらいいかを皆様と一緒に考え、参加していただくことで、身に付く学習をしていただきます。
今後、皆様が臨床の場でお会いする患者さんのために、是非この機会をご活用ください。

眞野徹 先生

千葉科学大学薬学部 非常勤講師 元沼津市立病院薬剤部 副部長
「癌疼痛および終末期の諸症状に対する緩和医療の処方」をインターネットで発表
著書は「1 ランクアップをめざす！がん疼痛治療」(南山堂、共著)、
「緩和ケアチームの立ち上げとマネジメント 一般病棟で取り組むための支援ガイド」(南山堂、共著)、他



☆懇談会☆のおしらせ

20日の講演後に、イベント参加者の方を交えた懇親会をやります!!
去年の参加人数はなんと100人!!
楽しい講演会の後は、美味しいお酒を飲むに限りますね!!

ナポリの下町食堂 お茶の水店
03-3291-3601
東京都千代田区神田駿河台2-1-45 ニュー駿河台ビル B1F
(会場から徒歩2分)

是非是非ご参加ください!!



APRM2017 JAPAN



Message from Organizing Committee

Dear IFMSA Asia-Pacific

It is like a dream come true for me to be able to welcome you to Asia-Pacific Regional Meeting 2017 in Japan.

The Organizing Committee has been working tirelessly and passionately to bring an unforgettable APRM for all of you. We are sure that at this conference, you will learn and have your horizons broadened, form friendships that last forever, and return home inspired to make a change. In addition, we hope that you will experience the essence of Japanese culture both traditional and modern, by staying in Tokyo, the beating heart of our country.

APRM is an opportune place for medical students in the Asia-Pacific to learn and discuss various global issues with an added medicine and health perspective. Some may ask why we need to be concerned about global issues as medical students.

To that, I would say that many of the problems the world faces today call for a health perspective in order to save the vulnerable and to come up with solutions that work for everyone. As medical professionals, we have a deep understand of the value of human life and dignity through firsthand experiences, and so we should be at the forefront to advocate for their protection.

In the light of this, this year's APRM theme "Healthcare in Conflicts and Emergencies" explores the responsibilities of healthcare professionals in emergencies and what roles we have in contributing to peace. I hope that this theme, not usually covered in medical school curricula, will enlighten students to think more broadly about the world around them.

The value of this regional meeting lies in its diversity, as students can bring their own local experiences and insights. I sincerely hope that this APRM will be a friendly, inclusive, and stimulating space for students from all over the Asia-Pacific to share and deepen their thoughts and to foster a spirit of camaraderie. With this, I would like to welcome all of you future colleagues to join us in Tokyo, Japan for an unforgettable journey.

Warmest regards,



Nana Tanamoto
APRM2017 Organizing Committee Chair
IFMSA-Japan Vice President for International Affairs

Organizing Committee



Chair
Nana Tanamoto



+81-80-9661-4747



Vice Chair
Yuta Tsukamoto



+81-80-3360-2979



PreAPRM
Takaaki Shamoto



+81-80-5138-7867



Visa
Satoka Sugahara



+81-90-9970-7132



Venue and Transport
Rie Nagayama



+81-90-2506-2473



Accommodation/ PostAPRM
Kanako Suzuki



+81-80-1264-8753



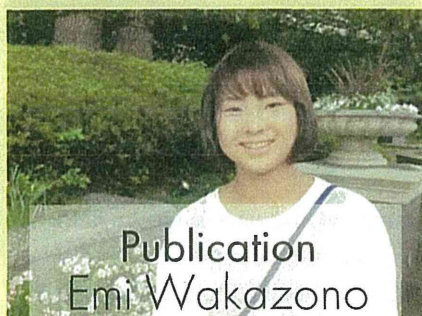
Theme Event
Misato Oki



IT
Yuki Koyama



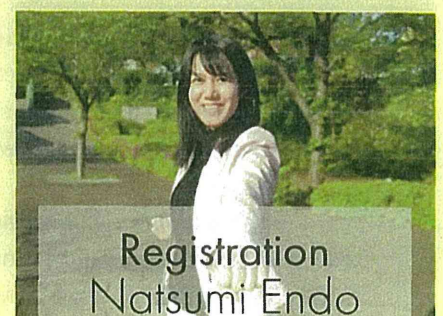
Finance
Daisuke Hasegawa



Publication
Emi Wakazono



Social Program
Hidenori Katsumi



Registration
Natsumi Endo



Logistics
Miyako Maebe



WhatsApp number



Telephone number

Message from President of IFMSA-Japan

Welcome to APRM2017 Japan!

It is my greatest honour that IFMSA-Japan is hosting an APRM for the first time in 10 years since 2007. For those visiting Japan for the first time, and also for those frequent visitors, I hope that all of you will have a great time in our country during this APRM.

This year's theme is "Healthcare in Conflicts and Emergencies" The Asia-Pacific is a diverse region, as each country has its unique problem and the ways the government and civil society tackle them. Despite this diversity, there are many ways in which we can learn from each other, cooperate with each other, and to become a stronger region together.

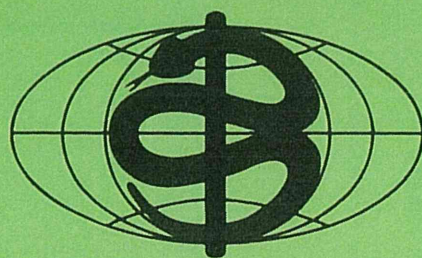
IFMSA is a place in which medical students overcome the differences in languages, cultures, and religions. Here, students network, collaborate, and act towards the future of healthcare. In this annual meeting, I hope that NMOs will share with each other about their countries and activities. I am also hoping that this APRM will be a place to foster discussions that lets delegates explore the possibilities of what we can do as medical students to make a positive impact.

I sincerely wish that experiences gained in the APRM2017 Japan will lead to students making a change in the Asia-Pacific and that this excellent regional platform of future doctors continue to exist in the future.

Best Regards,

Nagiho Tsukada
President of IFMSA-Japan 2017/2018

Think Globally, Act Locally



IFMSA-Japan



Message from Asia-Pacific Regional Director

Dear Asia-Pacific and medical students all over the world,

It is truly an honor to be able to invite you to the 13th Asia-Pacific Regional Meeting (APRM) in Tokyo, Japan this September. As one of the five regional meetings within IFMSA, APRM has always been a gathering place for IFMSA members within Asia-Pacific. It is an opportunity for you to get to know each other as well as to exchange ideas and best practices amongst yourselves. The regional meeting will be a good opportunity for all of you as the future of the health sector, to network and build your capacity to do the work that you love. I, representing my regional team and the organizing committee, am confident that APRM will allow you to feel more empowered, push you to improve your capacity, and thoroughly expand your worldview by the end of this meeting.

Nowadays, the region is becoming more and more affected with the volatile geopolitical situation of our world. We are witnessing a world in which health is quickly becoming an even more crucial aspect than before. Conflicts between different ideologies, refugees entering the region, increased chances of natural disaster, are some of the things that led to an increased need of healthcare providers who are able to understand the situation and work well in such conditions. Thus, taking all this into consideration, we have decided to bring up and underline the importance of the proposed theme: *"Healthcare in danger"* for this year's APRM.

The Asia-Pacific Regional team will be making the best possible sessions for you all, to aide you in ensuring your ability to impart maximum changes in local, national, regional, and international level. I would like to convey my thanks to my team and the amazing Organizing Committee from IFMSA-Japan who've worked hard and will continue to work tirelessly to prepare an amazing meeting for our region.

I look forward to welcoming you all in Tokyo, Japan.

On behalf of the Asia-Pacific Regional Team 2016/2017

Satria Nur Sya'ban
IFMSA Regional Director for Asia-Pacific



Message from President of Japan Medical Association

Yoshitake Yokokura, M.D.

President, Japan Medical Association
President-elect, Confederation of Medical Associations in
Asia and Oceania (CMAAO)
President-elect, World Medical Association (WMA)



In modern times of advancing globalization and rapidly progressing borderlessness, it is increasingly important that physicians across the border stand united to prepare against infectious disease outbreak and natural disasters and build a new system for a new age.

The world situation is chaotic, and urgent issues such as "Healthcare in Danger," "Climate Change," and "Social Determinants of Health" require our urgent initiatives. In addition, the United Nations is holding up the message of "leave no one behind" in the Sustainable Development Goals, and has set forth comprehensive goals by 2030, including ensuring healthy lives and promoting wellbeing for all at all ages.

It is all the more important that we maintain close collaboration globally, continue working to improve healthcare quality as much as possible with high ethical standards, and create an environment that ensures healthy lives for all people, because these are our essential missions.

Preparing an environment to foster young physicians who meet the needs of the times and encourage their achievements is a key issue. When I assume the Presidency of the CMAAO in this September and of the WMA in October, I wish to encourage more in-depth discussion about better medical training, and promote activities with visions to develop the environment in which medical students, to whom the future of medical practice will be entrusted, can reach their goals and hopes and practice ideal medicine.

I would like to congratulate the holding of the Asia Pacific Regional Meeting 2017, and I hope this will be an opportunity for medical students in these regions to grow even further so that they would play an active role in the healthcare community of their home countries and the world in the future.

Message from President of Tokyo Medical Association



Dear participants of APRM 2017,

As the president of the Tokyo medical association, I would like to extend my warmest welcome to all participants of the APRM 2017 to Japan and to this event. Myself and all the Members are all extremely happy and grateful to be able to host this event in TOKYO this year. Originally back in 2011, APRM was scheduled to be held in TOKYO but all that had to be cancelled due to the Great Earthquake of Eastern Japan. The massive disaster had destroyed buildings, infrastructure, which put a huge strain on economic activities of the entire Japan, not to mention the countless lives lost and injured. Families were displaced from their home towns and were forced to live in temporary shelters. From the Tokyo Medical association, many doctors, nurses, and medical professionals were dispatched to the ravaged areas in hopes of helping the needy. The association was also actively involved in fund raisers so that the victims can be assisted. These cooperative efforts are still on going as the disaster is still very much in its recovery stage and probably will require many more years for full recovery. I think it would be very significant that APRM 2017 to include discussions on how the medical field had contributed to the disaster recovery efforts so that any future mega disasters can be better managed.

In association with Japan's Ministry of Health, Labour, and Welfare, Tokyo medical association is also working closely with TOKYO Metropolitan Government, and Japan Medical Association to promote non-smoking for obvious health reasons. Passive inhalation of cigarette smoke is a serious issue that needs to be addressed for the benefit of everyone. Increasingly each year, Japan's society is facing a serious challenge. There are less and less children being born and the elderly are becoming more of a majority of the entire population. This is a topic that requires input from all facets of our society. The social aging will also advance in everyone's country soon. I promise you to build an appropriate medical health coverage system as a world standard in the future.

While you are here in Japan, please take this opportunity to experience and to see first hand the advancements in the medical technologies and the professionals who are diligently working to provide the highest quality of health care. Japan also is rich in traditional performance arts such as Kabuki and Noh. You can also go to Akihabara and enjoy the "Otaku" culture like cartoons and "Anime" just to mention a few of the entertainments that can be enjoyed.

I trust that this APRM 2017 will be a meaningful and a memorable event to you all and that it would be an asset to you for the future as medical professionals.

Thank you very much.

The President of Tokyo Medical Association
Haruo Ozaki

Time / Date	Day1 14 th	Day2 15 th	Day3 16 th	Day4 17 th
7:00		Breakfast	Breakfast	Breakfast
8:00				
9:00		Workshop @305/ 308/ Art room	Workshop @305/ 308/ Craft room	Workshop @Music room 35/ 37/ 33
10:00				
11:00				
12:00	Arrivals/ Registration	Lunch	Lunch	Lunch
13:00				
14:00		Workshop @305/ 308/ Art room	Workshop @Music room 35/ 37/ 33	Re-Registration for Pre-APRM Participants (13:00~) @Craft room
15:00				
16:00				
17:00		Dinner	Dinner	Tea Ceremony (14:00~16:00) @Ouka-Tei
18:00	Workshop @303/ 308/ 414		Workshop @Music room 35/ 37/ 33	
19:00		CMAAO Dinner Reception or Sightseeing Tour		
20:00				
21:00				Opening Ceremony and Gala Dinner
22:00	Welcome Dinner		Rest	
23:00				

な
の

Pre APRM

Place: TMET/ TNHRT/ TNT

Agenda


Time / Date	Day1 17 th	Day2 18 th	Day3 19 th	Day4 20 th	Day5 21 st
7:00	APRM Arrivals/ Registration @Craft room	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast
8:00		SC/Presidents' Sessions	SC/Presidents' Sessions	SC/Presidents' Sessions	
9:00					
10:00		@304/305/502/ Craft room/ Art room/ 503	@306/307/ 510/107/ 109/503	@306/511/ 510/512/ 109/503	
11:00					
12:00		Lunch	Lunch	Lunch	APRM Departure /Post tour
13:00		Activities Fair @416	Training Sessions	Joint Sessions	
14:00					
15:00		Training Sessions	Theme Event @Reception Hall	Theme Event @Reception Hall	
16:00					
17:00		Dinner	Dinner	Dinner	
18:00	Opening Ceremony and Gala Dinner @The SAKURA Dining Tokyo (Karaoke Party)	Preparation	NFDP @Club251	Plenary @Conference room	
19:00					
20:00		Cultural Night @Reception Hall			Closing @Conference room
21:00					
22:00					Social program
23:00		Social program			


APRM


Place: RP / PH / Ex / RA / Presidents'

Map around the venue

Convenience Store

 Family mart

 Seven Eleven

 Drug store



 Bar

1. Bar Shanks

2. Bar EngChang

3. Anea Café

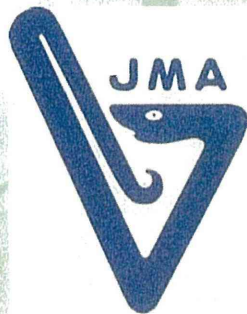
4. Bar hell gate



Sponsorship Page

今回、10年ぶりに日本でAPRMを開催するにあたり、大変多くの方々にご協力頂きました。
IFMSA-Japanスタッフ一同、感謝申し上げます。

大会後援



日本医師会



東京都医師会

物品協賛

株式会社 MEC

タオル750枚
トートバック250枚

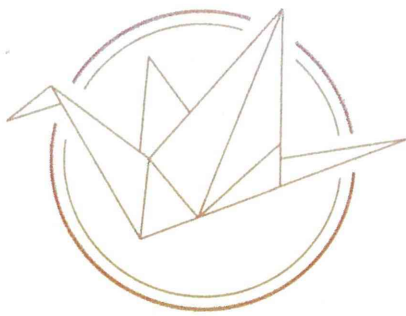


個人協賛（寄付金）

お名前(敬称略)	所属先
阿部 計大	東京大学大学院公衆衛生学
河野 圭	長崎大学病院 感染制御教育センター
佐治 朝子	北海道家庭医療学センター
佐藤 峰嘉	王子総合病院 呼吸器内科
坂元 晴香	東京大学国際保健政策学教室
阪田 武	奈良県総合医療センター
山田 舞耶	J A長野厚生連 佐久総合病院
柴田 淳平	豊橋市民病院
修 丹櫻	坂総合病院
小泉 さやか	伊東市民病院
小林 郁絵	奈良県立医科大学
照井 理美	-
森本 佳奈	京都大学医学部附属病院
大串 祐馬	福岡大学医学部 精神医学教室
天満 雄一	佐久総合病院
田中 豪人	国立国際医療研究センター国際医療協力局
和田 佳子	市立長浜病院

Credit

"Created by modifying Hyogo Himeji Castle / Kumamoto Paddy fields / Saga "Okusu" in Takeo / Shizuoka Shuzenji Onsen Town (©METI, Creative Commons Attribution 4.0 International License (CC BY 4.0)) <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>"



APRM2017 JAPAN



IFMSA-Japan